

決して偉ぶらず、謙虚に聞く耳を持つ

理事長 西河洋一

若い経営者の育成で成果を挙げた

西河技術経営塾・実践経営スクール・基礎コースの第一期生の修了式が9月24日に行われ、二人の修了生を送り出した。経営塾は「若い経営者を育てる」という目的で開講したが、我々の想定を超える成果を挙げることができたと思う。

開講当初の塾生は、講師陣の指摘に対して、早く自分の実力を認めてもらいたいとの如く、強く自己主張し、聞く耳を閉ざしていた。

講義回数を重ねある時期からとても素直になった。我々講師陣誰もが経営者として激動の時代に豊富な経営経験を持ち、経営問題の本質が体に染み付いている。

生徒のひと言に対する議論が、かなり深いところから追及し責めてくる。彼らにとって、かなりのプレッシャーを感じたことと思う。

塾を通し成長する姿は、講師陣も非常に教え甲斐があった

塾生は、素直に自分を曝け出すようになった。それから急速に成長した。一人は塾の学びを自分のマーケティング活動で実践し、道を切り開き、大きな成果を得た。

もう一人は、今までの失敗を振り返り反省し、自分の欠点を理解し、『経営者の心得 社長の20ヶ条』として纏め上げた。

二人は、西河技術経営塾を通し、何かの気付きを学ぶことができたと思う。胸を張って送り出せる第一期生である。塾を通し成長する姿は、我々講師陣も非常に教え甲斐があり、うれしいことであった。

経営資源の時間の後に運とかチャンスを掴むが加わる

経営者は、決して偉ぶらず、謙虚に聞く耳を持てば、情報が入り易くなる。それが成長の原動力だ。

「経営資源は人、モノ、金、情報、時間の5つといわれているが、時間の後に運とかチャンスを掴むが加わる」と私は考えている。

二人の修了生には、運とチャンスを掴んで事業を大きくしてくれるものと期待している。

以上